令和６年度瀬戸市総合教育会議　議事録

▽日　時

令和７年２月１３日（木）　午後３時から午後４時15分まで

▽場　所

瀬戸市役所 北庁舎４階　庁議室

▽出席者（順不同、敬称略）

【瀬戸市総合教育会議構成員】

瀬戸市長　川本雅之

教育委員会教育長　加藤正彦

教育長職務代理者　加藤千春

教育委員会委員　稲垣遼、大脇忠、安井友香、加藤千恵、鈴木紹陶武

【事務局等】

副市長　大森雅之

経営戦略部　部長　冨田和宏

政策推進課　課長　鈴木康夫、課長補佐　大矢達也

健康福祉部長　熊谷由美

こども未来課　課長　山井利明　子ども・若者センター長　磯村玲子

教育部　部長　駒田一幸

教育政策課　課長　谷口　塁、主幹　豊田幸一、課長補佐　松見健一、
専門員　松浦慎造

学校教育課　課長　杉江圭司、主幹　加藤　淳

▽議題

（１）　瀬戸市教育大綱について

（２）　瀬戸市の教育課題（不登校）について

▽議事内容

議事に先立ち、川本雅之市長から開会のあいさつがなされた。

（１）　瀬戸市教育大綱について

〇政策推進課長から昨年度改定した瀬戸市教育大綱について説明を行った。

（２）　瀬戸市の教育課題（不登校）について

〇学校教育課、子ども未来課、子ども･若者センターから資料に基づき、現在の状況等について説明をし、委員と意見交換を行った。
意見については、以下のとおり。

（委員）
〇不登校の原因が多様化しており、その見極めが難しい。
どのように専門機関等と連携しているのか。
（事務局）
■相談内容によって対応が異なる。医療機関へ受診勧奨する場合もあれば、家庭へのサポートを実施する場合もある。
〇ヤングケアラーが一定数存在することにも留意する必要がある。

（委員）
〇相談に来れない子どもや親を学校現場で把握することが大切である。学校現場ではどのように把握に努めているか。
（事務局）
■担任・学年主任が一義的に対応するが、学校全体で情報共有を図っている。SC（スクールカウンセラー）・SSW（ソーシャルワーカー）の協力を得て、学校・家庭・専門機関との連携を行っている。
〇原因が多様化していることから、学校現場だけでの対応は難しいと思われる。引き続き専門機関と連携を図り、教員だけで抱え込まず、組織としての対応が必要と思われる。

（委員）
〇HSC（生まれつき敏感で繊細、感受性が高い気質を持つ子）が不登校になりやすい。
〇不登校傾向にある子は、毎日登校しないため、教室に行っても、授業の内容についていけない。タブレット等を活用して、授業内容の補完ができる環境が必要ではないか。
〇「学校に行かない」ことを選択することもあると思うが、その際も専門機関との連携が必要ではないか。
（事務局）
■新型コロナ以降、「学校に行かない」選択をするケースは増えている。そうした子どもでも、様々な社会経験・社会体験を望んでいる場合がある。ケース会議で情報共有を図るとともに、専門家の意見も踏まえながら、社会経験・社会体験ができる機会を設けていきたい。

（委員）
〇義務教育終了後のサポートが大切である。
〇新型コロナ以降、子どもだけでなく、親にとっても、「人と人との直接的な

関わり」が減少している。そのため自分で相談に行けなかったり、問題を自分で解決する力が育っていない。
〇親と子の適切な距離感も大切である。親のような大人からではなく、子どもが、同世代や先輩から学ぶことのできる機会が必要ではないか。

（委員）
〇家庭に要因がある場合は、学校は介入しづらい側面がある。
〇不登校は今後も減少することは難しいならば、学校以外の場所でしっかり学習できる場所が必要（不登校の子どもが自宅で学習することが少ないというデータがある）。
〇義務教育終了後、社会とのつながりが途絶えてしまうことがないよう、不登校傾向となる初期段階から自宅に引きこもらないようサポートすることが重要である。

（委員）
〇「学校に行かない選択をする」背景に動画サイトの影響もあるのではないか。
〇就学未満児でも、保育園や幼稚園で、「早く家に帰ってゲームや動画サイトを見たい」という子どもがいる。
〇将来働く年齢になったとき、「会社に行かない選択をする」大人も増えるかもしれない。子どもたちにとって学校に居場所があることが重要であり、多くの経験を通じて様々な困難を乗り越えていく力を身につけてほしい。

（教育長）
〇新型コロナ以降、不登校は増加傾向である。
〇子どもたちにアンケートを実施するなど状況を把握することが大切である。そのうえで、学校に通いづらい傾向にある子どもたちを早期にサポートするため、「せとここほっとルーム」を整備している。
〇低学年の不登校数が増えていることを踏まえ、課題を整理するとともに、市長部局とも連携して対応していきたい。

３　その他
なし

議事を全て終了し、川本雅之市長から閉会のあいさつがなされた。